

第2分科会（小学校・創意ある教育課程）記録

提言テーマ「地域との連携・協働を図る教育課程の編成と運用」

～「社会に開かれた教育課程の実現」を目指して～

提言者 [佐賀市立金流小学校 副島 和久]
司会者 [小城市立三日月小学校 西村 雪彦]
記録者 [佐賀市立中川副小学校 熊本 万里子]

【研究協議題】

- ・ 持続可能な地域との連携・協働の在り方について
- ・ 地域資源を生かした教育課程の編成について

1 質疑応答

- ・ 進行の都合により、質疑応答はありませんでした。

2 グループ協議報告・まとめ

(1) Aグループより

- ・ コミュニティスクールの委員が不足し、運営面で職員に負担がある。
- ・ 地域との行事が増え、関わりがやや強くなってきている。持続可能な連携・協働を進めていくためには、できることとできないことをきちんと伝え、理解を促していく必要がある。
- ・ 働き方改革の改革も必要である。

(2) Bグループより

- ・ 地域とのつながりや活動が点になっている状態であるため、組織立てていきたい。
- ・ PTA担当は教務、地域コミュニティは教頭と分担しているが、コミュニティ事務局に専任職員がいるので、学校の負担は少ない。ただ、活動の主体が学校なのか地域なのかはっきりしないところがあり整理が必要である。
- ・ 学校運営協議会は、学校以外の視点で学校運営についてクリエイティブな発想など様々な意見を出していただきたいが、助言をもらえる場には至っていない。

(3) Cグループより

- ・ 地域の方の高齢化から、次の担い手をどのように繋いでいくかが課題である。
- ・ 地域と学校のwinwinの関係作りが必要である。実際、感謝の会や発表会でお世話になった方にお礼伝える機会を設けたり、協力者の写真を掲示したりすることで満足感につなげることができている。
- ・ 職員の経験値が変化しているため、教育課程にどのように組み込むことがいいのか難しさがある。また、固定化してしまうと探究的にならないという問題点もある。

(4) Dグループより

- ・ 持続可能な地域との連携を行っていくためには、地域共同推進委員や地域コーディネーターなどの存在が不可欠であり、コーディネーターが活動を引き継ぐ担い手となっている。
- ・ 活動が点と点にならないよう教科横断的なカリキュラムの作成が必要である。
- ・ カリキュラムを可視化することで、様々な活動を次年度に引き継ぐことができる。

(5) まとめ

- ・ キーワードとして双方向、地域とのつながり、目的明確化、地域の方の高齢化などがあげられ、これらのキーワードをいかに構造化して教育課程を構築していくかがこれからの課題である。

第2分科会（中学校・創意ある教育課程）記録

提言テーマ「学校・地域のよさを生かした教育課程の編成・実施について」

～地域と共に育む教育の推進を目指して～

提言者 [小城市立芦刈中学校 藤田 浩巳]
司会者 [小城市立三日月小学校 西村 雪彦]
記録者 [小城市立牛津中学校 平石 義治]

【研究協議題】

- ・ 持続可能な地域との連携・協働の在り方について
- ・ 地域資源を生かした教育課程の編成について

1 質疑応答

- ・ 進行の都合により、質疑応答の時間はありませんでした。

2 グループ協議報告・まとめ

(1) Eグループより

- ・ 地域資源を活用した教育活動（農業体験など）は、地域貢献の機会として有意義だが、効果的な学びに結びつける必要がある。
- ・ コーディネーターが継続的な地域連携の窓口を担うことで、学習活動を持続可能な形にすることが重要。
- ・ 地域と学校がお互いに無理をしない活動の計画を立てる
- ・ 具体例として、体験活動を教科教育に結びつけるカリキュラム設計の取り組みが挙げられた。
- ・ 学校と地域の役割の整理と施栓が必要。
- ・ 地域のニーズを知ることと学校のニーズを知ってもらうことが大切。

(2) Fグループより

- ・ 地域コミュニティとの連携強化が重要。特に後継者不足や地域の高齢化に対する対策が必要。
- ・ 地域貢献の感謝イベントを実施し、地域の方々とのつながりを深める活動が報告された。
- ・ 若手教員の意見を取り入れながら、総合的な学習に地域との連携を組み込む工夫を検討中。
- ・ 活動が地域貢献につながっているのか、検証することが必要。
- ・ 総合的な学習の時間に地域貢献活動を組み込むことで、平日の活動となり、職員の負担が減った。
- ・ 校内でのコーディネーターの設置と地域の後継者の発掘と加入の促進。

(3) まとめ

○地域と連携した活動をどのように教育課程に位置づけ、持続可能な形にするか。地域と学校の目的を明確化し、公平性を保ちながら連携を進める必要がある。学校にとっても地域にとってもよりよい関係とは何かを探していきたい。